

江戸東京の大きな特性として、東京湾の存在があります。世界において、江戸東京と同様に大河の存在が核になっている大都市は数かず思い浮かぶものの、なかでも同時に大きく海に面しているところは多くはないでしょう。本シンポジウムは、その東京湾を考えようという企画です。この都市に住む人びとが眼前の海辺をどのように見、どのように利用し、つき合ってきたか、都市史、美術史、地図史、文理の垣根を越えてさまざまな分野の専門家による最先端の研究成果をうかがいながら、その歴史を探ってみましょう。

東京湾シンポジウム



法政大学市ヶ谷キャンパス
新一口坂校舎301教室



参加無料

対面×Zoom配信

会場参加希望の場合、事前申込は不要です。
オンライン参加希望の場合、QRコードから事前申込をお願いします。

プログラム

司会：小林ふみ子（法政大学）

13：30

基調講演

陣内 秀信（法政大学）

「東京臨海部の空間史—形態・機能・意味の視点から」

法政大学江戸東京研究センター特任教授。ヴェネツィアのラグーナ研究を下敷きに、80年代以後、東京湾の歴史と現状をウォッチングしてきました。建築・都市史の領域では研究が極めて少なく、今後の都市づくりへの展望を描くにも重要な課題だと思っています。

14：30

渡邊 晃（太田記念美術館）

「浮世絵に描かれた江戸湾と水辺」

太田記念美術館上席学芸員。太田記念美術館にて、浮世絵と江戸の地形に着目した「江戸の凸凹—高低差を歩く」「江戸の土木」等の展覧会を担当しました。著書に『浮世絵でたどる！江戸の凸凹地形散歩』（山川出版社）、『広重 名所江戸百景』（共著、美術出版社）ほかがあります。

15：10

ラドウ・レカ（香港浸会大学）

「水面下の想像の接触ゾーン—江戸湾の十九世紀地図をめぐる」

香港浸会大学視覚芸術学院助教授。美術史と地図史を研究しています。Martijn Stormとの共編『Enduring Encounters: Maps of Japan from Leiden University Libraries』（ライデン：ブリル）が近刊予定です。

15：50

久保 純子（早稲田大学）

「東京湾の海岸線の変化」

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。東京新宿区生まれ、早稲田大学・東京都立大学で地理学を専攻し、関東平野など日本の平野や東南アジア・南アジアの平野の地形をフィールドワークしながら研究しています。

16：40～17：30

全体討論 コーディネーター：米家 志乃布（法政大学）

主催 江戸東京研究センター
「江戸東京の文学と都市史」プロジェクトチーム
共催 法政大学国際日本学研究所

EToS

江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies



【お問い合わせ先】
102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
Email: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp